小森コーポレーションとSCREEN

高速IJ機販売で協業

米国における戦略的事業契約を締結

㈱小森コーポレーションと㈱SCREENホールディングスは、両社の米国におけるグループ会社であるKomori AmericaとSCREEN GP Americaが、両社の営業部隊を効果的に統合する戦略的事業契約を締結したことを発表した。

小森コーポレーションの北米販売会社であるKomori Americaは、SCREENホールディングス傘下の印刷関連機器事業会社であるSCREENグラフィックアンドプレジョンソリューションズ（SCREEN GP）の北南米地区販売会社SCREEN GP Americaと、SCREEN GPが開発した最先端のロール式高速インクジェット印刷機の高精細モデル「Truepress Jet520HD」の米国における独占販売契約を締結し、このほど販売を開始する。また、SCREEN GP Americaは、今回の契約により、インクジェット印刷機分野でこれまで培ったノウハウと専門的技術をKomori Americaに提供し、同社の販売活動を支援していく。

Truepress Jet520HDは、これまでのインクジェット印刷の限界を超えたオフセット印刷に匹敵する優れた品質を実現しており、オンデマンド印刷の領域で、トナーベースのデジタル枚葉印刷では生産性や経済性が見合わないとされてきた新しい市場や媒体を拓くことが可能な装置。SCREEN GPの高速連帳インクジェット市場における10年もの経験の蓄積に基づく、用紙搬送、乾燥手法、プリントヘッド、高色域インクなどの先端技術を搭載。40gsmから250gsmまでの用紙をセットでき、顧客の多様なニーズに対応している。

【小森コーポレーション　梶田英治営業統括本部統括本部長コメント】

「今回の戦略的事業契約は、当社とSCREEN GPの両社にとって大変すばらしい組み合わせとなった。SCREEN GPの販売チャンネルと当社の米国販売チームが合流することによって、オフセット印刷機とデジタル印刷機の販売戦略に相乗効果が期待できる。そして、なにより重要なのは、両社が持つ専門的な知見を融合することによって我々の顧客にベストなソリューションが提供できるようになることだと考えている」

【SCREEN GP　青木克彦社長コメント】

「当社は長年にわたり、小森コーポレーションとの親密な関係を築いてきた。印刷業界における製品シェアを互いに拡大するためには、両社の持つ製品力、販売力を融合することが最適だと考え、この度の事業契約の締結に至った。米国における商業印刷に携わる顧客が両社一体となって取り組む事業展開に大きな価値を見出されることを確信するとともに、今後の発展に期待している」

は、「今回の日本限定モデルの発表はアジア市場、とくに日本のラベル市場の厳しく、かつ特殊なニーズにも対応するザイコングループの姿勢の証明である」と述べた上で「その特長は、ユーザーのビジネス業容の拡大に応じて印刷スピードや印刷幅のアップグレードが設置後でも可能という点。つまり、無理のないスマートな投資回収が期待できる」と、同機の導入のメリットについて説明した。

ザイコン

日本限定モデルを開発

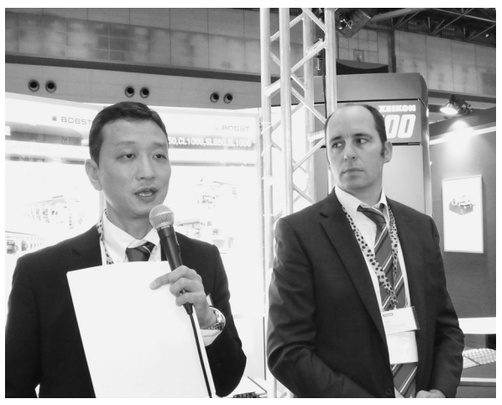
「Xeikon 3020」発表

ザイコンはIGAS2015開催初日の9月11日、ザイコンジャパンブースで記者会見を開き、日本のラベル印刷市場向けに設計された4色デジタルラベル印刷機「Xeikon 3020」を発表した。

会見には、ザイコンインターナショナルのウィム・マースCEOとザイコンジャパンの山部淳社長が出席。冒頭、挨拶したマースCEOは「日本のラベル印刷業界のデジタル化を促進するために、今回、日本限定モデルを開発した。品質へのニーズが高い日本のラベル印刷市場に必ず貢献できる印刷機であると確信している」と、同機の開発コンセプトについて説明した。

今回、発表された日本限定モデルの4色デジタルラベル印刷機「Xeikon 3020」は、国産のフィニッシング装置に多くラインアップされている150mm～250mmの基材幅に合わせて設計されており、有版方式で中間幅の高品質ラベルを製造しているコンバーターにとってはデジタル印刷をスタートするエントリーマシンとして最適のモデルとなる。

基材厚は、40gsm～350gsmに対応し、印刷速度は、9・6m／分。このほか、インライン分光測色機を標準装備しているほか、オプションでインラインシートカッターを接続することが可能。


山部社長（左）とマースCEO

同機は、高品質な印刷を実現する「QA－ITナー」を採用。同トナーはCMYKの基本4原色に加えて、数々の常備在庫特色トナーをはじめ、ワンパス高隠蔽型ホワイトトナー、セキュリティ用クリアトナーなど、特殊なトナーを使用することができる。また、同機は5色目ユニットも簡単にレトロフィットすることができ、さらに、PEなどの熱に敏感なフィルムの印刷に適している「ICEトナー」を選択することも可能となっている。この「QA－ITナー」、「ICEトナー」は、ともに米国FDAガイドラインの認証を受けており、食品パッケージ（非接触）などへ用途を拡大している。

同社では、IGAS2015開始と同時に販売を開始し、2016年第一四半期からの納入を見込んでいる。

会見の席上、山部社長

近畿2府5県
大阪・京都・兵庫・和歌山・奈良・滋賀・福井
印刷・関連業者名簿
好評発売中
定価 ¥5,400
印刷時報 ☎06-6358-1561

IGAS2015閉幕

5万6,000人超が来場

次回開催は2018年

9月11日から東京ビッグサイトで開催されていた国際総合印刷機材展「IGAS2015」が16日、6日間の会期を終えて閉幕した。会期中には海外を含め、目標来場者数を上回る5万6533人が来場した。

次回開催は2018年の予定。

9月11日（金）＝1万0175人／12日（土）＝1万3917人／13日（日）＝6501人／14日（月）＝8260人／15日（火）＝9168人／16日（水）＝8512人

千葉大学工学部

100周年事業実施へ

湯本　会長

千葉大学工学部画像工学同窓会（湯本好英会長）は9月14日、東京ビッグサイト商談室において記者会見を開き「千葉大学工学部画像系学科百周年記念事業」の概要を発表した。

千葉大学工学部画像系学科は、1915年（大正4年）に当時の東京美術学校の写真学科、製版学科が創設されたことをスタートに、その後、1926年に東京美術学校の写真学科が、工学部の前身である東京高等工芸学校の印刷工芸科に移管。1949年に千葉大学工芸学部（現工学部）と改称されたのち、幾多の変遷をたどり、写真・印刷から出発した画像系学科は、2015年に創立100周年を迎えることとなった。

会見の席上、湯本会長は「画像系学科は創立以来、写真、印刷、画像の分野で活躍する人材を育ててきた。その伝統を継承していくためにも、多くの卒業生に参加してもいたい」と述べた。

記念事業としては、2016年10月15日に記念式典を開催するとともに記念誌「千葉大学工学部画像百周年記念　未来への画像（仮称）」、画像集「千葉大学工学部画像百周年　記念画像集（仮称）」などの発行を予定している。

なお、同窓会では円滑な情報配信を行うため、e－mailアドレスの登録を呼びかけている。

登録については、「千葉大学工学部画像百周年会」（http://gazo-chiba-u.jp/）まで。

カラーステーションの取扱製品事業

10月より営業を継承

㈱光文堂（本店／名古屋市中区、讃岐秀昭社長）は10月1日より、㈱カラーステーション（旧㈱アルファー技研製品）の取扱製品の事業を㈱光文堂カラーステーション事業部に営業継承する。

同社は今回の営業継承を機に、光文堂の営業部門と一体となり、コンポーネント事業・サポートの一層の発展に努めていく。

営業継承する取扱製品、並びに対応可能な製品は次のとおり。

▽㈱カラーステーション製品

全般

▽旧アルファー技研製品

インキディスペンサーID－FX／ID－NEX／ID－X

スピンミキサーMS－5000／MS－1000

封筒フィーダーUF－01

封筒デリバリーBFT－01／PS－13S

その他の製品については、用相談にて対応する。

IST METZ UVセミナー2015盛況

UVの理解を深める場に

UV光源のISTイーストアジア㈱（本社／東京都大田区蒲田1－18－10、マークス、ティンネス社長）は9月14日、東京・有明の東京ファッションタウンビルにおいて「IST METZ UVセミナー2015」を開催した。

「価値ある方法で…！未来のために…！」をテーマにした同セミナーには、約45名が参加。席上、はじめに挨拶に立った同社のティンネス社長は、「当社は昨年4月、ドイツのUV光源メーカーであるIST Metz社の100％子会社として設立した。設立から1年が経過したこともあり、このたびIGAS2015の会期とタイミングをあわせてISTの最新技術を報告する場を設けさせていただいた」と述べた。

ティンネス社長

セミナーでは、はじめにIST METS社のGmbH Kuhn Hoiger氏が「UV DAYS2015報告」、「UVヨーロッパ市場」を演目に講演。ドイツに本拠地を構えるIST METSグループについて紹介した。

同グループは、30年以上にわたるUV技術のノウハウを持っており、インク・ワニス・シリコン・接着剤などの環境に配慮したUV硬化システムの開発から製造・販売までを行っている。また、同社のシステムは印刷産業だけでなく、他産業の工業用途にも数多く使用されているという。

同氏はまた、商業印刷をはじめ、包装印刷やセキュリティ印刷、プラスチックなど様々な分野において活用されているヨーロッパでのUV技術の現状について説明した上で、LED UVの特徴について「短波長のため、オゾンが発生しない」「LEDチップの生産には水銀が使用されていない」などのメリットを挙げた。

続いて、今年4月にUVランプの硬化速度向上を目的にISTの高圧水銀ランプを導入した明文舎印刷商事㈱（本社／滋賀県長浜市）の中村彰男社長が講演した。

中村社長は自社の概要を紹介した上で、ISTの高圧水銀ランプを選択した理由について「きっちりとしたセパレーターを作るために、高圧水銀ランプを導入することを決定した。当社で使用するインクや薬剤と、波長の相性も良く、非常に良く乾いている。また、リフレクターが非常によくできており、堅牢であるとともに、見た目にも格好良い。ラインスピードも向上し、メンテナンスも容易。決め手になったのは、ランプの幅は20インチあり、用紙の端までUVがきっちりと届いて乾くということである」と述べ、特にリフレクターについて高く評価した。

「価値ある方法で…！未来のために…！」をテーマにした今回のセミナーには約45名が参加

このあと、㈱T&K TOKA技術本部 研究第2グループの榎田崇志グループリーダーが「UVインキで印刷物に差をつける」をテーマに講演し、UVインキの特徴と使用例、UVインキの硬化機構、UVインキと油性インキとの比較などについて説明した。

最後に、ISTイーストアジア㈱の技術営業マネージャーである岡本恭一氏が、「IST UV装置のこだわり！」をテーマに講演。同氏はUV装置を選択するポイントやランプの特性などについて説明した上で、ISTが自信を持つ「リフレクター」の重要性を強調し、ISTのリフレクターについて解説。昨今注目を集めるUVの理解を深めることのできるセミナーとなった。

JetPress720S契約記念セレモニー

IGAS2015で開催

FFGS

記念撮影のカメラに納まる共進ペイパー＆パッケージの鍛治川取締役（中央）と富士フイルムデジタルプレスの松本専務取締役（右）

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱（＝FFGS）はIGAS2015の会期中、同社ブースにおいて、B2サイズ枚葉型インクジェットデジタル印刷機「JetPress720S」を契約した企業の記念セレモニーを開催した。

9月14日午後3時40分からは、㈱共進ペイパー＆パッケージ（本社／神戸市、鍛治川清司社長）の記念セレモニーが開催された。定刻になるとJetPress720Sの前に多数の関係者が集まり、大きな拍手に迎えられる中、同社関東工場の鍛治川和広取締役が入場。富士フイルムデジタルプレス㈱の松本専務取締役とともに記念撮影のカメラに納まった。

同社は9月下旬までに千葉市花見川区の関東工場にJetPress720Sを導入し、稼働を開始する予定。

ミマキ

子会社で3Dプリント サービス

来秋発売予定の製品に反映

3Dプリンタサンプル

㈱ミマキエンジニアリング（小林久之社長）は、連結子会社の㈱グラフィッククリエーション（本社／長野県東御市、松永信隆社長、以下「GCC」）において、フルカラー3Dプリントサービスを開始した。

近年、3Dプリンタ市場は2013年からの「3Dプリンタブーム」を経て、黎明期から成長期へと移行し、今後も年間30％以上の成長が続くと予想されている。

とくに産業用途では、最終製品のマスカスタマイズ生産を実現する手段として期待され、またホビー、記念品など、コンシューマ向けのカスタムメイドの需要も拡大している。

同社では、市場が成長期に移行することで、より「美しい色表現」「精細で美しい造形」の要望が高くなると考え、業務用インクジェットプリンタの開発、製造で独自に培ったインク吐出技術、インク技術、色表現を活かし、高発色で美しい色表現・高精細で美しい造形を実現する「表現力に差がつくフルカラー3Dプリンタ」の開発を行っており、2016年秋の販売開始を予定している。

今回のGCCでのプリントサービスの開始は、この製品の発売に先立ち、市場のニーズを捉え、製品に反映させるのが狙い。

3Dプリンタの特長は以下の通り。

▽UV硬化インクを使用した同社独自の着色方式により、高発色で鮮やかなフルカラー表現を実現。ICCプロファイルに対応し、優れた色表現を可能にした。1000万色以上のフルカラーでこれまでにない3Dプリント造形を提供する。

▽同社がインクジェットプリンタの開発、製造で培ったインク吐出技術で、正確なインクの着弾を実現。さらに、高精細な造形に適したインクを開発することで、文字、線、写真など微細なテクスチャもシャープなエッジで表現できる。また、積層ピッチが細かく積層縞の少ない滑らかな造形を可能にしている。

▽クリアインクを搭載。単体で使用すれば透明表現が可能。カラーインクと組み合わせると有色スケルトンや内部構造の可視化など、「石膏方式」では実現できない表現を可能にする。

大日本印刷

「DJSI World」

11年連続で構成銘柄に選定

大日本印刷㈱は、世界的に権威のある社会的責任投資（SRI：Socially Responsible Investment）の指標である「Dow Jones Sustainability Indices（DJSI World）」の構成銘柄に11年連続で選ばれた。

今回、DNPは59の産業分野のうち、所属する「Commercial Services&Supplies」Industry」において、「環境」面で最高評価を得たほか、「サプライチェーン」全体での責任ある調達に向けた活動の強化や、「人権・労働」に関するリスク・課題の把握など、グローバルな社会課題への真摯な取り組みを評価され、11年連続で構成銘柄として選定された。

エプソン

新インク技術搭載の大判IJプリンター4機種

エプソンは、大判インクジェットプリンター「SureColor」の新商品として、新インクテクノロジー「UltraChrome（ウルトラクローム）HDXインク」を搭載した10色顔料インクモデル「SC－P9050シリーズ」（B0プラス対応）、「SC－P7050シリーズ」（A1プラス対応）、「UltraChrome HDインク」搭載の8色顔料インクモデル「SC－P8050」（B0プラス対応）、「SC－P6050」（A1プラス対応）の4機種6モデルを今年10月中旬より発売する。

新商品のプリントヘッドは、「PrecisionCoreTFPプリントヘッド」を搭載。インクは、新インクテクノロジー「UltraChrome HDXインク」および「UltraChrome HDインク」が搭載され、フォトブラックインクの顔料粒子量が従来比約1・5倍に増量したことで、黒濃度が向上。カラー印刷時には、より立体的な表現が可能となり、モノクロ印刷時では、暗部の微妙な階調の変化を忠実に再現することができる。

新商品の10色顔料インクモデル「SC－P9050」および「SC－P7050」は、従来機で評価を得ているライトグレーインクを搭載したモデル「SC－P9050G」「SC－P7050G」に加え、バイオレットインクを搭載したモデル「SC－P9050V」、「SC－P7050V」を新たにラインアップしている。

とくにバイオレットインク搭載モデルは、従来機と同様のグリーン、オレンジインク搭載によるグリーンからイエローへの色域拡大に加え、バイオレットインクの効果により、青から紫の色域がさらに拡大したことで、特色が求められるパッケージ（包装印刷物）プルーフ用途などの印刷業に最適なモデルとなっている。